

# 第1学年通信

令和5年2月17日（金）発行  
多摩市立聖ヶ丘中学校  
第1学年 第40号



## 第4回定期考査

1年生最後の定期考査まで、あと1週間となりました。本日から、部活動はなく下校となるため、学習ができる時間も確保することができます。さて、最近の生徒の話を聞いていると、「勉強をしているのに成果が出ずに辛い。」と悩んでいる人が複数名いるようです。実際に、3年生が入試に向けて生活をしている姿を見たり、実際に部活動の先輩の話を聞いたりすることが影響しているのでしょうか…「進路に向けて、勉強は大切だ。」という気持ちが、1学期や2学期と比べると大きくなっているように感じます。

私自身、学生時代、学習の成果が出ず、気持ちが沈むときがありました。そんな時、当時の恩師が次の言葉をかけてくれました。「努力をしなければ結果はでないが、努力をしても結果がでるとは限らない。けれども、失敗と反省を繰り返して、どのように努力をすればよいのか（取り組み方を）改善し、継続すれば、必ず努力は実る。」

1年生最後の定期考査、今年1年間の集大成として、そして2年生、3年生に生きるように、日々の生活を大切にしながら取り組んでほしいと思います。

### 令和4年中学生人権作文コンテスト 協議会長賞

#### 薬物乱用防止ポスター 特別賞



日付	曜	時間数	内容・連絡	提出物	その他	給食
20日	月	6時間		—	—	○
21日	火	6時間		—	—	○
22日	水	5時間		—	—	○
23日	木	—	天皇誕生日	—	—	—
24日	金	3時間	第4回定期考査	各教科	—	—

「小さな一歩で」

久我奈津美

「おぎゃあ~~~~。あ~~~~。」

眼科に入った瞬間に聞こえたのは、そんな激しい子供の泣き声でした。

私が眼下に入っていくと診察室から子供の大きな泣き声が聞こえてきました。受け付けをしようとしても、看護師さんが一人もいませんでした。泣いている子供に全員がつきそっていたからです。

しばらくして、その子はお母さんに抱っこされて出てきました。そのお母さんは、もう一人の赤ちゃんをベビーカーに乗せていました。

そんな時でした。待合室で私の後ろに座っていたおばあさんがずっと立ってお母さんの所へ行き、話しかけているのが目に入りました。最初はそのおばあさんとお母さん達は知り合いかと思いました。でも、話している内容を聞くとそうではない事が分かりました。

そのおばあさんは

「よくがんばったね。えらいよ。」

「子供もだけど、お母さんもよくがんばっていたね。」

と言っていました。次に、

「お母さんが折れちゃだめだからね。がんばってね」

と、お母さんを励ましていました。それに対して、お母さんは、

「いえいえ。ずっと大声で泣いてうるさかったですよね。すみませんでした。」

と何度も謝っていました。でも、おばあさんは優しい表情で何度も励ましていました。

知らない人に話しかけるのは、とても勇気がいることですが、そのおかげであの子供とお母さんが少し軽い気持ちになれたと思います。

私は、今までそのような場面を見た事がなかったので、そのぶん強い印象を受けました。

親はいつでも子供を見ていますが、どれだけ育児に慣れている人でも大変だと思える時があるはず。小さい子供は『痛い』を泣いて伝えます。大きな声で泣いても悪いことではないし、迷惑に思っている人も多くないのに謝っている親を何度も見た事があります。そんな時に誰かが

「大丈夫ですよ。」

と声をかけてあげると、とても良いと思います。でも、知らない人に声をかけるのは容易ではありません。

あのおばあさんは、さらりとお母さんに話しかけていたことから、これまで何度も同じように知らない人に話しかけていたのではないかと思います。そして、きっと何人もの心を軽くしてきたすごい人です。そのような人は身近には少ないですが、自分にもちょっとした気遣いができる事を考えてみました。バスや電車で席を譲ったり、困っている人に手をかしたり、荷物を持ったり、声をかけたり…すぐにできる事がたくさんあります。気づいていても実際にできる人はあまり多くないと思います。私も人見知りな所があって、なかなかできません。でも、今回のような場面を自分の目で見て、少しできる気がしてきました。

皆さんは困っている知らない人がいたら、迷わずに声をかける事ができますか？そして、困っている人を見かけた時、さりげない気遣いをしたことはありますか。

そのような関わりを持てたからこそ、知らない人との仲も深まっていくと思います。血縁や年齢、性別を超えて、親しみ合うことができるのです。とても素敵なことだと思いませんか。

あの時、眼科で出会ったおばあさんに負けないよう、私もがんばりたいです。初めて会う、知らない人でも困っている人を見かけたら、声をかけて話したいと思います。自分より年が上でも下でも相手がどんな人でも困っていたら、勇気を出して、優しく接したいです。

また、知っている人でも、

「どうしたの、大丈夫？」や、

「何か手伝おうか？」

と言い、相手の目線になって一緒に解決できたらいいなと思いました。

相手の気持ちを想像する事、勇気を出して声をかける事、その一歩で相手の気持ちを軽くする事が私にもできるのです。

お互いを認め合える、朗らかで不安を抱えずに誰もが安心して過ごせる、そんな社会を実現したいです。